

「騎西藤まつり」に関する

提言書



平成25年5月28日

騎西地域
まちづくり市民会議

「騎西藤まつり」に関する提言

騎西地域まちづくり市民会議

私たち騎西地域まちづくり市民会議は、加須市に係わる全ての方々による協働の「まちづくり・地域づくり」を昨年6月から検討してきました。

そこで騎西地域に於いては、全体会議の中から地域最大のイベント「騎西の藤まつり」の課題等を検証しまとめることが、「まちづくり・地域づくり」へ繋がるとの立場から、「騎西藤まつり」に特化して検討することとしました。

下記の通りご報告します。今後の一助として頂ければ幸いです。

1. 平成24年度の「騎西藤まつり」案内から (auctions.yahoo.co.jp 参照)

樹齢400年の大藤は、埼玉県天然記念物に指定される県内有数の大藤です。G.W.の期間中が花の見ごろとなり、およそ5万人もの見物客が訪れ賑わいを見せます。これに併せて「騎西藤まつり」が実施されて来ました。



① PR案内の概略

樹齢約400年の大藤はノダフジの一種で幹周りは4.8m、700平方メートルの棚一面に花房をつけ長いものは2m近くに及びます。甘い香りを漂わせ、薫風に揺れる様は花の波のようです。

【開催期間】 平成24年4月29日（日・祝）～5月6日（日）

【場 所】 玉敷公園、玉敷神社

【入 場 料】 無料

◆見 ご ろ： 4月下旬～5月上旬

◆品 種： ノダフジの一種

◆総 数： 10本

◆藤 棚： 約700平方メートル（幹周り約4.8m、樹齢400年超）

② 開催イベント内容（抜粋）

○ 騎西藤まつり開催期間中

「藤」案内（大藤咲かせ隊）、物産販売、植木市



○ 4月29日（日・祝）

和太鼓（騎西太鼓の会こどん）／9:30～10:00／野外ステージ

開会式／10:00～10:30／野外ステージ

稲穂戦隊スイハンジャーショー／10:30～11:00／野外ステージ

歌謡ショー（藤売店）／11:00～12:30／野外ステージ

フォークダンス・よさこいソーラン（フォークダンス連盟・花連）

12:30～15:30／野外ステージ・ステージ前広場

○ 4月30日（月・振替休日）

相馬流山踊り（双葉町婦人会）／11:00～12:00／

ステージ前広場

民謡（如貴久民謡会）／13:30～15:00／野外ステージ



○ 5月3日（木・祝）

音楽演奏（TATIY／タティ・おやじバンド）／10:00～12:00／

大正琴（大正琴愛好会）／12:00～13:00／野外ステージ



○ 5月4日（金・祝）

俳句大会（騎西俳句連盟）／8:30～17:00／騎西コミュニティセンター

花笠踊り（花笠踊り愛好会）／11:00～12:30／野外ステージ

大正琴・フラダンス（琴幸会）／14:00～15:30／野外ステージ

○ 5月5日（土・祝）

剣道大会（騎西体育協会）／9:00～12:00／

ふじアリーナ

歩け歩け大会（騎西体育協会）／9:00～15:00／騎西総合公園～

藤むすめコンテスト（商工会青年部）／12:30～15:00／野外ステージ

琴（まゆの会・藤風会）／10:00～14:00／ステージ裏藤棚

野点（江戸千家一陽会）／10:30～14:00／ステージ裏藤棚



○5月6日(日)

写真撮影会（写真撮影会実行委員会）／10:00～15:30／公園・神社

コーラス（サンシャインコーラス）／10:00～11:00／野外ステージ

和太鼓（飛龍太鼓）／11:00～12:00／野外ステージ

よさこいソーラン（風雲児・騎西中学校） 14:00～16:00／野外ステージ

③ 開催期間中の来場者数 5万人との推定（地域外からが意外と多い）



2. 全体の意見まとめ

まちづくり市民会議から見えて来たものとして、来場者約5万人と多いこと、特に地域外からの見学者が多いことに注目すべきです。

また、従来からの課題も多くあるようで、「まちづくり・地域づくり」の観点からも、大いに検討する価値があるようです。

今後とも、多くの皆様のご意見に期待をし、運営委員会としては「騎西藤まつり」をまちづくり・地域づくりに活かしたいと考えます。

まちづくり市民会議の中で出された意見を基にまとめ提言といたします。

1) 現状の課題（多く出された意見）

- ① 来場者の駐車場が狭く指定場所が遠い
 - ・・従来から多くの意見が出されている。発想の転換も含め検討する。
- ② イベント等の協力団体を増やすことも必要
 - ・・藤まつりが騎西地域最大のイベントである現実を踏まえ検討する。
- ③ 祭りの目的・PRに工夫が必要では
 - ・・「騎西藤まつり」は歴史的にも古く、地域のコミュニケーションの場としても重要。目的等を明確にし、多くの市民の参加を呼び掛けると共に、PR活動を行う。
- ④ 藤むすめコンテストのイメージが強く、他イベントがはっきりしない
 - ・・藤まつり全体の目的は市民の交流か？市外の方へのPRか？祭り全体の目的・ねらい等がはっきりしないとの意見。

- ⑤ 藤棚の中に見学者等を入れない方が良いのでは
 - ・ ・フジの生育等から柵の中での催し等は避けた方が良いとの意見。
- ⑥ 「祭り」の魅力を感じなく、遠く感じる
 - ・ ・祭り全体が親しみやすく、気軽に楽しめる祭りとなるよう、工夫が必要。多くの市民が企画段階から参加でき、多くの市民で盛り上げる祭りとするべき、など多くの意見が出されました。

2) 「祭り」について

文献等から祭りについて調べました。



① 祭りとイベント

祭りとイベントは外見的には良く似たもののように見えるが、概念的には全く違うとのこと。

祭りとイベントを分けるものそれは、

- ・ 祭りとは参加者の観点からみた「主観的なもの」
 - ・ イベントとは企画者からみた「客観的なもの」
- という差異であると言われてしています。

昨今とり行われる行政や企業主導の「祭り」があります。

これには住民に連帯感を持たせるとか、大勢の観光客を誘致したいとか、商品や会社のイメージをアピールしたいといった主催者側の目的というものがあるとのこと。それらの目的にしたがって「イベント」を企画・運営するのであるが、それを「祭り」と認識できるかどうかは参加者が「ふるさと意識・仲間意識」と「達成感」を得られるか否かにかかっています。

押し着せの「〇〇祭り」では参加者は上から押し付けられているような気分や自分たちの本音が十分表現できないという感情を覚えるとのこと。

この場合「社会的役割からの解放」が不十分であるからであろう。この時点でイベントは祭りでなくなるとのこと。

商品の宣伝や観光だけが目的のイベントならともかく、住民に「ふるさと意識・仲間意識」をもたらすことが目的のイベントの場合、きちんと「祭り」となるか「イベント」で終わってしまうかはひとえに「祭りの参加者」の視点に立って考えることが重要になります。

優れた祭りとは参加者が祭りに参加することにより大きな「達成感」を得られることであり、参加者の参画意識を高揚させることも企画者に課せられた使命であると言われてしています。

② 祭りの種類について

祭りは古今東西で実施されています。ここでは国内で実施されている祭りについて紹介し、日本人にとって祭りが果たしてきた役割を再認識することとします。

日本最古の祭りと言われているのが、現在でも実施されている京都の祇園祭です。祇園祭は、今から1100年ほど前に京都の街に「ほうそう」（天然痘と考えられている）という伝染病が流行し、多数の死者が出たことに起因しています。「ほうそう」の流行は神のたたりであるとされ、その神の怒りをおさめるために「やま」や「ほこ」等の祭祀具を用いたのが祇園祭の始まりとされています。

この祇園祭の手法は、典型として日本各地に広まり、地方の風習と合体し様々な変化を経て、現在の祭りに繋がっています。



～全国的に有名な祭り～

(1) 阿波踊り

1587年に横須賀家政によって徳島城が落成した際、その祝賀行事として城下の人々が踊ったのが起源とされています。明治期に、藍商人の財政援助で豪華になり繁栄してきました。

昭和初期の不況時に、郷土史家の林鼓浪氏が「阿波の盆踊り」と呼ばれていたものを観光目的に「阿波踊り」と名づけました。

戦後間もない昭和21年にも、阿波踊りは占領軍に許可され3日間に渡り実施されました。そのときの徳島新聞には、「阿波踊り復活、何はなくとも明朗に」との見出しが付けられました。

その後、自由な民衆娯楽として大きく開花していきました。東京・高円寺、埼玉・南越谷、北海道各地等で根付いたうえ、海外遠征も果たし、日本を代表する踊りから「AWA_DANCE」として世界の踊りへと飛躍しました。



(2) 博多どんたく

博多どんたくは、「博多松囃子」を母体として形成、発展してきました。「どんたく」の名称はオランダ語の「ZONDAG」（休日の意）が語源とされています。戦中8年間中止されていた「どんたく」は昭和21年5月に復活しました。

肩衣を紙で作し、馬はハリボテを首か胸に下げ、三味線、太鼓などを戦災から免れたところから借り集めて「博多どんたく」のお囃子を瓦礫のまちに響かせながら練り歩いたことが、復興へ大きな勇気を与えたと言われています。



③ 市民がつくる祭りについて

戦後、多くの地方自治体で市民連帯と地域振興の目的でいわゆる「市民祭り」が行なわれることとなりました。

「かわさき市民祭り」では、「私たちのまち川崎を、さらに活気のあふれるふるさととして発展させるとともに、市民同士の友情と連帯を育み、より豊かな市民文化の創造に寄与」するため市民の創意工夫による手作りの祭りとして開催しています。

「さいたま市民まつり」では、さいたま市民相互の交流と融和を図るため、様々な市民参加型のイベントを実施し、祭りを通じての都市交流を図っているようです。

いずれの市民祭りも「ふるさと意識・仲間意識」や「自己の達成感」に訴えています。住民の地域社会への帰属の認識が薄いと言われる大都市や合併市町村でこそ、市民祭りの役割は大きいと言えます。



3. 「騎西藤まつり」についての提言のまとめ

上記の事柄を踏まえつつ、下記のとおり改良案などをまとめてみました。

① 駐車場について

- ・まちなかの空き地を利用する。
- ・総合支所駐車場等を開放する。
- ・旧騎西高校の校庭を利用する。

など検討しつつ、早々には物理的に駐車場の確保も難しい現状があることに鑑み、発想の転換を図り、藤まつり会場の周辺に駐車場を求めるのではなく、駐車場を分散し各イベントも駐車場に合わせて分散させるなどしてはどうかと考えます。

② 地域全体で盛り上げる

- ・商店街の協力を得て、スタンプラリー等来場者をまちなかに誘導する。
- ・まちなかでPR活動・藤むすめのまちなかパレードの復活等を行う。
- ・協力者を増やし、地域市民全体で祭りを盛り上げる。
- ・若い人が参加しやすい祭り等、過去のイベント等を参考に、見直しを行う。

来場者が地域外の方々が多いことにも鑑み、騎西地域の特産品などをPRすることも含めて、来場者をまちなかに誘導することが必要と考えます。

そのためにも、商工会・商店街などの全面的な協力が必要で、騎西地域全体での盛り上げ・取り組みを工夫すべきと考えます。

③ 今後の方向性

- ・本年は、玉敷の大藤が移植され80年、河野省三没50周年と聞きます。そこで、それぞれの記念行事との連携を図って行くべきと考えます。
- ・併せて、藤まつり実行委員会をより多くの関係者の話し合いの場とすべきと考えます。
- ・加えて、まちづくり市民会議メンバーも積極的に参加できる体制づくりを検討すべきと考えます。

いずれにしても、「祭り」を盛り上げ・成功させるのは、企画・実行する実行委員会の双肩にかかっていると云っても過言ではありません。

「騎西藤まつり」が騎西地域最大の「祭り」であること、地域の絆やコミュニティづくりなど、「まちづくり・地域づくり」に多大な貢献をしていることに鑑み、地域市民に「親しみやすく、気軽に楽しめる祭り」、「地域づくり・まちづくりへと繋がる祭り」となるよう、地域市民や行政などが協働で改善が図られるよう切望するものであります。

※※ 平成25年度の「騎西藤まつり」に関する市民と行政等との協働 ※※

提言書の提出に先駆け、今年の騎西藤まつりにおいて既に協働を実践したことを報告します。

①いっしょに考える

市民会議に観光協会事務局も参加して、平成25年度の騎西藤まつりについて一緒に検討しました。

②地域で盛り上げる

騎西藤まつりを会場の玉敷公園だけで感じるのではなく、地域で感じてもらうという意見の中から、行政並びに観光協会が商店街全体にのぼり旗を設置してくれました。

③駐車場の増設

市民会議での駐車場が少ないとの意見から、行政が新たに小学校内敷地を駐車場として利用可能にしてくれました。

④ボランティアガイド

市民ボランティア「大藤咲かせ隊」が、玉敷公園の藤、玉敷神社、騎西地域の観光等の案内を自主的に行ってくれました。観光協会からは祭り資料の提供等の情報提供が積極的にありました。

⑤大藤奉納80周年記念イベント

大藤奉納80周年の記念の年である今回の祭りにおいて、これまでの祭りの恒例のイベントに加え、有志が記念のイベントを主催し、行政がそれをバックアップしてくれました。

資料編

～～～騎西地域まちづくり市民会議～～～

騎西地域では下記のとおり、市民会議を開催しました。



【第1回】

開催日時	平成24年6月16日(土) 午後2時から
会場	騎西総合支所 2階会議室
テーマ	「地域の課題」
主な意見等	<ul style="list-style-type: none"> ● 「各家族化」「公共施設の有効活用」「地域での子育て」 ⇒ 「人と人との交流」「話し合いの場」が必要 ● 「商店街の活性化」「観光資源の発掘・活性化」「気軽にみんなが集まれる場所」 ⇒ 地域を「活気」づけたい

【第2回】

開催日時	平成24年7月13日(金) 午後7時から
会場	騎西総合支所 2階会議室
テーマ	「人と人との交流」
主な意見等	<ul style="list-style-type: none"> ● 人と人が交流をするには ⇒ 交流の場所が必要 「世代間交流の場所」「誰でも参加しやすい場所」「出会い・きっかけをつくる場所」 ● 具体的に・・・ ・フェイス to フェイスで！ 「市民農園」「コミュニティ・カフェ」「直売所」「読書会」「宿泊施設」・・・ ・ネットで！ 「通信販売」「ネット広告」・・・ <p>つまり ⇒ 多くの人たちが、いつでも出会える環境づくりが必要</p>

【第3回】

開催日時	平成24年9月6日(木) 午後7時から
会場	騎西総合支所 2階会議室
テーマ	地域の観光を考える(第1回)～藤まつりから騎西を元気に！
主な意見等	<ul style="list-style-type: none"> ● もっと様々な団体の協力が必要。地域全体で。 ⇒ 団体への声かけ。商店街の協力が不可欠

【第4回】

開催日時	平成24年11月8日(木) 午後7時から
会場	騎西総合支所 2階会議室
テーマ	地域の観光を考える(第2回)～藤まつりから騎西を元気に!
主な意見等	●駐車場の問題について ⇒ 近くの会社の敷地を借りてはどうか。 ●地域で祭りを盛り上げる ⇒ 商店街にのぼり旗を など

【その他】

まちづくり市民会議を開催するにあたり、その都度、運営委員会を開催し会議の運営方法や流れについて確認をしました。(全6回)

また、提言書について運営委員会にて協議し、市民会議での意見を取り纏め作成をしました。

○加須市協働によるまちづくり推進条例『抜粋』

平成 23 年 10 月 5 日制定

第 1 章 総則

(目的)

第 1 条 この条例は、加須市のまちづくりの基本理念や基本原則などを明らかにするとともに、協働によるまちづくりの方向性や、具体的な役割や責務などを定めることによって、加須市の特性を生かした活力ある豊かな地域社会を実現することを目的とします。

第 2 章 まちづくりの理念

(まちづくりの基本理念)

第 4 条 私たちは、身近な地域課題に対して、自ら主体的に取り組むことを基本に、まちづくりの担い手となることによって、地域の伝統や文化を継承しながら、市民主体のまちづくりを進めます。

2 私たちは、市民生活の多様化や生活圏の拡大とともに、まちづくりの選択肢が限りなく増加していく中で、多種多様なニーズに対応していかなければならないことを踏まえ、自らの意思と責任において自主的かつ主体的にまちづくりを進めます。

(協働によるまちづくりの基本原則)

第 5 条 私たちは、次に掲げる 3 原則に基づき、協働によるまちづくりを推進します。

- (1) 対等の原則
- (2) 情報共有の原則
- (3) 目標共有の原則

第 3 章 まちづくりの担い手

(まちづくり市民会議の設置)

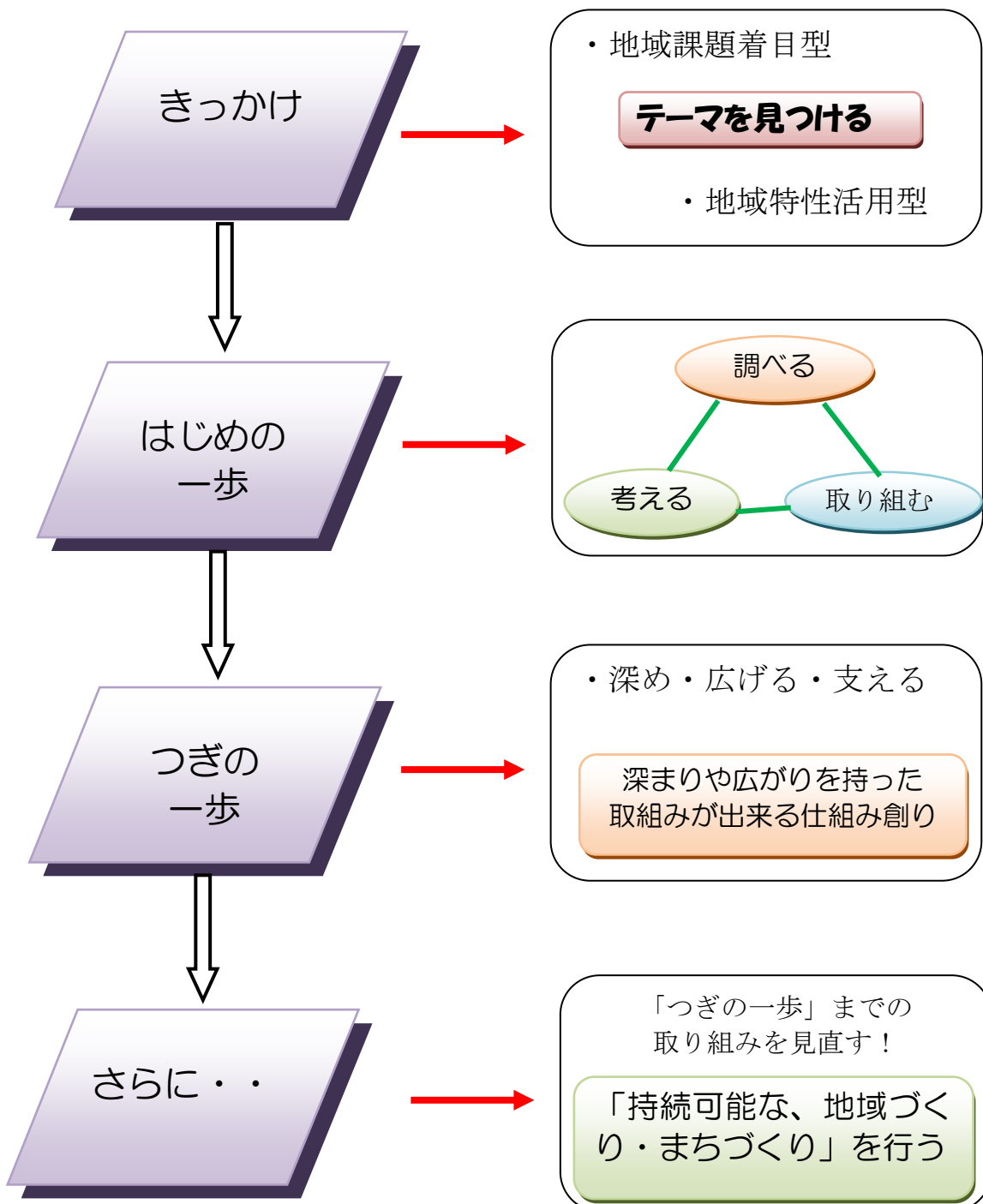
第 6 条 私たちは、まちづくりに関する課題の解決に向けた話し合いを行うため、まちづくりに関する市民等の自主的な会議(以下「まちづくり市民会議」といいます。)を設置するものとします。

2 まちづくり市民会議は、まちづくりに関する様々な課題の解決のために、参加を希望する全ての市民等による話し合いを実施します。

加須市の未来を創造する
まちづくり市民会議・騎西地域会議

平成24年7月13日

○地域づくり・まちづくりのプロセス！



騎西地域まちづくり市民会議
運営委員名簿

No	氏 名	備 考
1	二宮 良	委員長
2	黒川スミ子	副委員長
3	阿部 公仁	委員
4	石井 明子	委員
5	伊藤 玲子	委員
6	石川 忍	委員
7	及川 正則	委員
8	小山 久夫	委員
9	清水 文章	委員
10	相馬 桂子	委員
11	藤村 和彦	委員
12	松井 睦仁	委員
13	山内 利夫	委員